

---

# 第 19 回日本障害者歯科学会

2002年10月18(金)・19(土) 京王プラザホテル札幌

演 題 当センターでの障害者歯科診療の実態

演 者 高田 靖

---



# 当センターでの 障害者歯科診療の実態

演者 高田 靖<sup>1)</sup>

中村全宏<sup>2)</sup>、北川 尚<sup>1)</sup>、郷家嘉一<sup>1)</sup>、山口博之<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>社団法人 東京都豊島区歯科医師会・口腔保健センター あぜりあ歯科診療所

<sup>2)</sup>東京都立東大和療育センター

## 緒 言

東京都豊島区では平成2年より在宅寝たきり高齢者を対象とした在宅高齢者歯科訪問診療事業を開始し、平成6年からは対象者を特別養護老人ホーム入所者にも拡大し、また、診療内容も拡大し訪問診療の充実を図ってきたが、より本格的な歯科診療が提供できるような拠点施設の開設が望まれていた。そこで行政との連携の中で平成11年4月に豊島区口腔保健センター「あぜりあ歯科診療所」を開設し、寝たきり高齢者を搬送しての診療や一般の歯科診療所では十分な歯科治療を受けることが困難な障害者に対して身近なところで本格的な歯科治療を提供できるような体制づくりを行った。専門指導医のもと豊島区歯科医師会の会員が協力医として3ヶ月から6ヶ月の間極力、担当医制をとるようにして障害者等の歯科診療に携わっている。また、在宅高齢者歯科訪問診療事業発足当時の歯科衛生士もこの事業に携わってきており、診療の介助だけでなく診療後の口腔ケアにも積極的に取り組んでおり在宅高齢者や施設入所者に大変喜ばれている。そこで今回、我々は「あぜりあ歯科診療所」が開設されてからの約3年間の診療実績等についての検討を行った。

比率としては発達期障害者1/3、中途障害者2/3男女比率では男性が約4割、女性が約6割であった。

平均年齢は平成11年で発達期障害者；26.9歳、中途障害者；73.2歳。平成12年で発達期障害者；22.9歳、中途障害者；72.6歳。平成13年で発達期障害者；19.2歳、中途障害者；70.7歳であった。患者の基礎疾患を分類すると、中途障害者では脳血管障害、痴呆、パーキンソン病が最も多く中途障害者全体の62%になる。発達期障害者では精神遅滞、脳性麻痺、自閉症が最も多く発達期障害者全体の75%になる。

歯科診療時での行動管理の状況を図1に示した。

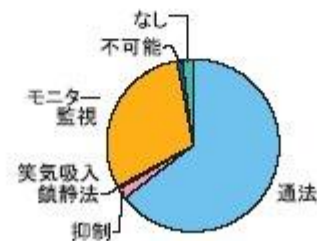


図1 歯科診療時における行動管理

## 対象と方法

平成11年4月より平成13年12月までに当センターを受診した患者を対象に調査し、基礎疾患や診療内容等について専門指導医2名を中心として判定評価を行った。

## 結 果

年度別初診患者数を表1に示した。発達期障害者73名、途中障害者161名、計234名であった。

表1 年度別初診患者数

	H11年	H12年	H13年	合計
発達障害	26	22	25	73
中途障害	63	53	45	161
合計	89	75	70	234

## 考 察

中途障害者の受診が多いためモニターによる監視下での診療が比較的多いが、障害者歯科診療といってもほとんどの場合で通常の歯科診療となら変わりなく対応できているのが現状であり、緊急的な歯科処置が必要な場合以外は抑制下での診療は避け、根気よく対応している。

豊島区でも高齢者人口は増加傾向にあり、今後も発達期障害者よりも中途障害者の当センター受診者数は増えるものと思われる。

## 結 論

当センターが開設されてまだ3年しか経っていないが、受診者数は順調に増加している。今後はセンターでの診療と在宅訪問診療、診療後の訪問歯科衛生指導との連携をさらに充実させる必要があると同時に、地域での受け入れ体制の構築が必要であると考えられた。